

1 病院長就任の挨拶と抱負

院 長 仙賀 裕



平成18年4月1日付けをもって、宮下正俊前病院長の後任として私が病院長に就任いたしました。

茅ヶ崎市立病院は、平成16年4月に病床数401床で新病院が全面開院いたしました。開院後、早いもので2年が経過いたしました。この間、病院職員全員が一丸となって、患者さまに良質で適切な医療を提供できるよう努めてまいりましたが、今後もより一層、市民の皆様や患者さまから信頼される病院を目指して努力してまいります。

病院のこの2年間の主な改善点と今後の取組について述べさせていただきます。

第1に、新しい臨床研修医制度が施行され、当院でも平成16年4月から臨床研修医が診療に加わるようになりました。今年3月に第一期生の研修が終了し、全員が一人前の医師として巣立ってくれました。現在、第二期生、第三期生が日々研鑽に努めておりますので、引き続き明日の病院を担う若い医師たちにご理解とご協力をお願いいたします。

第2に、財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価審査を受け、全ての評価項目で基準を満たしていることが認められ、平成18年2月20日付で認定証を受領いたしました。今後も更に病院機能の充実と療養環境の向上に努めてまいります。

第3に、平成16年度に策定いたしました「茅ヶ崎市立病院経営計画」の進行管理を行い、平成17年度の平均病床利用率も約91%に達成し、計画目標を上回る経営改善が見込まれます。今後も限られた職員でそれぞれの部署で連絡を取り、更に良質な医療を提供するとともに経営の健全化に努めてまいります。

第4に、救急医療をさらに充実させるため、平成16年4月から、救急診療部において、平日診療時間帯に救急担当医を配置し、救急車などに直ちに対応できるようにいたしました。また、夜間の救急担当職員には、救急の患者さまに、更に親切丁寧な対応ができるよう指導してまいります。

第5に、近隣の病院や診療所との連携をさらに深め、平成15年4月から開始した登録医制度を充実させ、患者さまのニーズに答えられるよう対応いたしました。今後も登録医制度を更に発展させ、近隣の医師と相談しながら退院後の患者さまについても細かな配慮をしてまいります。また、医師会とも外来、入院、在宅治療を含め、密接に協力してまいります。

以上のようなことを踏まえて、今後も

- 1 医療の機能や役割を明確化した病院
- 2 より良いサービス、情報管理システム化が図られた病院
- 3 チーム医療がきちんとできている病院
- 4 地域医療連携システムがきちんとできている病院
- 5 チェック機能が働く病院
- 6 ビジョン、理念、基本方針をきちんと設定した病院
- 7 患者の安心と満足が得られるEBM（事実）に基づいた医療ができる病院
- 8 住民の声に応えられるような病院
- 9 運営管理が効率化できる病院
- 10 職員に対する教育、研修が充実している病院
- 11 アメニティ（療養環境）を向上させた病院

の完成を目指して、職員一同邁進していく所存です。

ところで、平成18年度には当院にもがん治療のための放射線治療装置を導入することとなりました。これまで放射線治療のため、他の医療施設に紹介させていただき、患者さまにはご不自由をお掛けしておりましたが、できるだけ早い時期に当院で放射線治療ができるようにいたします。併せて、通院しながら癌の治療が受けられるように、外来部門にがん化学療法の治療施設を整備いたします。

そして、治療設備が整うことで全人的ながん治療が可能となり、茅ヶ崎市立病院で安心してがん治療が受けられるような体制づくりをいたします。

今後も患者さまの立場に立って、インフォームドコンセント（十分な説明と同意）に努め、地域医療の発展と市民に信頼される病院づくりに全力を尽くす所存ですので、ご理解とご支援・ご指導を重ねてお願いいたします。

2 副院長就任の挨拶

副院長 望月孝俊



この度、秋山前副院長退職の後を受け、平成 18 年 4 月 1 日付けにて新たに副院長に任命されました。これまでは一医師として、また、医師のまとめ役として診療部長の立場でしたが、これからは病院長の補佐役として、市民の健康を守るため、院内の全職種にかかわり、地域医療や病院機能の改善・向上に寄与していく所存ですのでよろしくお願い致します。

新病院が全面開院したのは平成 16 年 4 月ですが、その基本構想は平成 7 年に策定されました。平成 10 年に新病院建設工事が着工され、平成 12 年に一期工事が完成し、平成 15 年に二期工事が完成しましたが、最初の構想からすでに 10 年余りが経過しました。

その後も臨床研修病院としての教育・診療体制の整備や病院機能評価受審に向けての院内システムの見直しを行いました。また、湘南地区の包括的救急医療体制への参加と救急救命士の教育開始を含む二次救急病院としての新救急医療体制の構築等、次々と新しい課題に直面してきました。その間、歴代病院幹部の方々の努力を目の当たりにしながら、末席にてその一翼を担ってきたつもりです。

一方で、時代の流れは、さらに速く、新しい医療技術・器具・薬品は次々と開発・導入され、国民の医療に対する期待と要望は高くなり、マスコミの視線は日々厳しくなっております。当院においても、時代の変化とともに、医療政策や市民の声に、迅速かつ柔軟に対応できる体制がこれまで以上に必要であると実感しております。

新体制開始直後から、診療報酬の改訂をはじめとする病院運営の見直しや、やっとな実現できるところまできた放射線治療機器の導入等、いきなり課題は山積みですが、病院長、事務局長とともに、職員の力をひとつに結集して頑張っていきたいと思っております。

3 新体制の一員として 副院長兼事務局長 秋葉順一



この4月、市立病院は病院長、副院長、事務局長が退職され、新幹部体制になりました。私も病院医事課長から事務局長の辞令を受け、その一員となり、早くも一ヶ月が過ぎました。

この間、業務の合間を縫って、近隣公立病院等へ新病院長、新副院長とともにあいさつ回りを行いました。どこへ行っても医師の大学病院への引き上げや看護師不足が話題になり、幹部の方々が病院の経営（人が資本）に苦勞されていることが分かりました。

市立病院は、地域の中核病院、急性期病院として、平成16年4月に401床で全面開院となりました。病院事業は、地方公営企業の一事業として位置づけられ、その経営に当たっては独立採算を原則としており、良質な医療の提供と安定した経営体制の構築を行い、健全経営を目指していかなければなりません。

この2年間、救急医療体制を充実させたり病診連携を深めたり、また、病院機能評価の認定を受けるなど、前病院長はじめ幹部の方々が公立病院の役割を担ってきました。

この経営状況をさらに改善していくことが新体制に課せられた仕事であると強く認識し、その責任の重さを痛感しております。

ちょうど、今年度（平成18年度）は、平成16年度に策定された「茅ヶ崎市立病院経営計画」の中間年度で、見直しの年度となっております。また、この4月の診療報酬マイナス改定により、病院の経営が大きく影響を被ると考えられます。

このような状況を認識して、今年度の病院経営方針に沿って、事務局長として病院長の補佐役として、病院長にアドバイスやサポートをし、病院全体のコミュニケーションを良くし、病院全職員が力を合わせて経営改善に取り組めるよう頑張りたいと思います。